



謹賀新年

新年あけましておめでとうござい
ます。

昨年は支部例会の内容が「企業
変革支援プログラムVer. 2」に
準拠し、e.doyuへのプログラ
ム登録率も2.6%から6.2%に
伸び25年9月時点は全国10位とな
りました。例会開催数も大幅に増
え、例会づくりに関わる人も増えて
きているという声も耳にします。

推進協議会では役員研修会開催、
共育委員会準備会の実践交流や
研修、これまで例会開催の実績がな
かった西都市で例会（知る会拡大
バージョン）を2回開催、景況調査
も高回答率で推移しております。

青年部会は鹿児島でのブロック合同
例会や香川青全交に多くの参加者
を送り出し、会全体の学び合いの
広がりにつなげていただきました。
委員会活動も精力的に行われ、
フォーラムは十数年ぶりにひむか地
域で開催されました。また、展望の
30年史も発刊され次の10年を展望
する準備も整いました。

さて、本年は引き続き激変の時代
だといわれます。国際的にはロシア
のウクライナ侵攻や中東情勢によ
りエネルギーや食糧価格は高止ま
り、大国の自国中心主義がさらなる
資材の高騰を引き起こそうです。
国内情勢は景気が緩やかに回復と

する大企業と厳しい景況の認識にあ
る中小企業の格差はさらに開き、
金融政策の変化、特に利上げは物価
上昇と相まって私たちの経営環境に
大きく影響します。人手不足も深刻
です。

理事会では26年度活動方針の検討
に入っています。今年は厳しい環境
に耐えうる学び合いを充実させ、
同友会型企業の基礎を学び直し、
経営者としての基礎の学び直しの機
会を設けていこうと考えています。
また、例会を始め、地区会、オリエ
ンテーション等で会員が本音で交流
できる場づくりをさらにすすめてい
きます。次の10年ビジョンの形も
検討を始め、これまで結論が出てい
なかった運動や活動の基本的な考え
方も整理を始めていきます。

宮崎同友会は春には任意団体から
一般社団法人に生まれ変わります。
今年は午年でも丙午（ひのえうま）
で情熱や勢いが高まり、大きな飛躍
をする年とされています。本年が、
会員企業にとって、また宮崎同友会
にとつての飛躍の年となりますこと
をお祈りして新年のごあいさつとい
たします。

宮崎県中小企業家同友会
代表理事 那須久司
宮島孝美

今年もよろしくお願いいたします。（受付順）

給与UP (別府損保事務所 別府 昭人)	しんらい (財務経営サービス 中村 健一郎)	ハピネス (ハピネス 丸山 将史)	生涯現役 Sunpower (森田 義孝)	行雲流水 (赤松 正次)	自己肯定 社会福祉法人清樹会 岩下 博子
年輪経営 (ヤマトボーデン 内倉 信一)	感謝報恩 (木村仏具店 木村 邦子)	一念通天 優企画 (高濱 優子)	緊禪一番 (サン保険企画 堂園 長史)	先義後利 (小村自動車サービス 小村 剛)	住宅塗装 (嶋末塗装店 嶋末 武)
心身健全 (ひろせ本店 廣瀬 吉弘)	共同求人 (アーム 阿萬 英一朗)	万里一空 (弘栄産業 上田 博)	家族第一 (日向屋 請問 仁)	晴雲秋月 ハッコトラベル (金井 二三代)	積小為大 (フクマツ 福松 修一郎)
俱会一処 (もりなが 守永 泰雄)	人材紹介 (ウェブサイト 柳本 明子)	雲外蒼天 社会保険労務士法人 ALX (アルクス) 井手 真弓	明鏡止水 ナイフ宮崎 内布 省吾	やぎFC DBCトータルサポート (川崎 益央)	Rome 小原農園 小原 拓也
採用育成 (コノハナ 塩谷 愛藍)	ワクワク ピジャット内装 立山 智洋	人財創育 (中仙 中山 章博)	一致団結 (永峰養豚場 永峰 智浩)	益々繁盛 (おりなす建材 那須 久司)	負荷価値 (東広吉社 東 由子)
日々成長 (愛Life 光行 新哉)	臥薪嘗胆 (島大組 宮島 孝美)	はたらく (のぞみステーション 迎 敦雄)	挑戦する 合同会社花葉 村山 美佳	意気衝天 ダブルハウス (渡会 真也)	団結する (UNITE 河野 梨澄)
四耐四不 (タスキン中川・ 頼りバーセン 中川 彰伸)	クリーン (グローバルクリーン 税田 和久)	笑顔一番 黒木デザイン社 黒木 詔一	一念通天 (都城印刷 田中 賢一)	つくる会 エンジョイプラン 平山 博士	天馬行空 IDO 井戸事務所 井戸 泰雄
環境構築 (NoDe 乙守 孝仁)	愉快活発 (木和工芸 木上 和成)	元其初心 (斉田商事 齋田 知明)	三股ラブ IST STYLE 佐藤 輝和	完全復活 (フィットピア 杉村 隆寿)	紅蘭紫菊 Relaiuvo 津曲 智子
入念周到 (九州エネルギー 長倉 努)	三位一体 (ハラケアシステム 原 秀直)	冷静情熱 社会保険労務士 行政書士 ひがし事務所 東 信一郎	体幹強化 (日高設備工業 日高 憲一郎)	ミル姉♡ (松浦牧場 松浦 千博)	切磋琢磨 (ファミリーガス 森 健太郎)
企業変革 (一政設備 一政 浩蔵)	一燈照隅 黒岩建築設計 (黒岩 常正)	知恩惜別 (バームス企画 中島 加重子)	不易流行 (ビューフィールド 前島 崇志)	地域貢献 (日伸洗車機 幸森 茂雄)	経営指針 うと社会保険 労務士事務所 宇都 陽一郎
不撓不屈 (日伸洗車機 幸森 雄次郎)	温故知新 (巴設備工業 (下 水流 匠)	勇猛果敢 (Entime 寺山 大夢)	志産向上 (A・CON・TEE宮崎 橋口 直幸)	不可価値 (ふれあい ケアセンター 初山 幸太郎)	健康第一 (マシタ電器 松下 慎一郎)

11月20・21日に香川県で第53回青年経営者全国交流会が開催されました。
宮崎同友会から永峰 智浩氏が、第5分科会で報告を行いました。
永峰 智浩氏の報告をダイジェストでご紹介いたします。

実行委員長がんばったら会社が良くなった

「見守る」リーダーが導いた売上3番への軌跡

(有)永峰養豚場 代表取締役 永峰 智浩氏
(きりしま支部)

創業／1973年
資本金／300万円
年商／5億600万円
社員数／16名
事業内容／養豚一貫生産
(飼育総数9,000頭)・
枝肉販売・堆肥製造販売

はじめに

私は1982年生まれの43歳で、宮崎県都市で養豚業を営んでいます。都市は、人口15万9,000人に対し、豚35万頭、牛6万頭、鶏885万羽を擁する「家畜の方が多い町」であり、市町村別の農業産出額で長年日本一を維持する畜産の町です。

我が社は1973年に父が創業し、1998年に法人化しました。現在は母豚800頭、総飼養頭数1万頭規模へと発展しています。経営理念は「生命(いのち)と向き合い、生命(いのち)をつなぐ」であり、豚肉の安定供給を通じて人々の健康と長寿に貢献し、チャレンジ精神を持って輝きあう企業をめざしています。

私は地元の農業高校を卒業した後、鹿児島県の農業大学校を経て、国内研入れを決断します。養豚では、母豚1頭あたりの年間離乳頭数が重要な成績とされており、全国平均では23・24頭です。技能実習生たちの優秀さや農場長の活躍もあり、全国平均を上回る成績へと向上していきました。

しかし、農場施設は老朽化が進行し、豚が外へ逃げ出すような状態でした。アメリカで描いた「理想の農場をつくりたい」という夢の実現に向けて、父の「やれるもんならやってみろ」という言葉を引き出し、行動に移しました。

融資交渉の最終局面、銀行から「理念とかないんですか?」と問われ、引き出しにしまっていた理念を取り出し、真剣に説明しました。説明をしながら、理念に沿った行動を自分ができていたことに気づき感動したのを覚えています。結果20億円もの資金を調達できました。当時の売上の10倍近い金額であり、売上を3倍にすることをめざす大きな挑戦でした。

実行委員長としての「変革」

新農場建設で多忙を極めていた私は、農業青年団体での長としての活動や商工会青年部での部長経験など、すでにさまざまな青年組織を経験していたこともあり、2019年11月に設立された青年部会に対して、当初、「同友会に青年部は必要ない」と感じていま

修に加え、アメリカで2年間学びました。このアメリカでの経験は、私にとって大きな転機となりました。大規模経営、効率的な飼育システム、社員雇用による組織化を目的に、帰国後は「自分も同じような養豚経営をめざそう」という夢を抱きました。

理想と現実、そして父との衝突

しかし、当時の我が社は、私が描いた理想とはかけ離れていました。豚舎は壁がないほど老朽化し、冬は寒く夏は暑い、休みもほとんどない家族経営でした。業務量の多さから管理も追いつかず、豚が病気になるがちで死亡率も高まり、売上は上がらないのに治療費が増えるという悪循環に陥っていました。

私はアメリカで学んだ先進的なシス

した。しかし、九州・沖縄ブロック青年部合同例会での報告や連絡会への参加を通して、同世代の経営者たちが理念や経営に真摯に向き合う姿に刺激を受け、青年部活動に積極的に参加するようになりまし

勢いに乗っていた私は、当時の部会長から「来年、宮崎で開催する青全交の実行委員長か部会長、どっちかやってみない?」と問われた際、「実行委員長は全国で一人だけ。部会長は47人いる。実行委員長の方が面白そう」という理由だけで、実行委員長を引き受けました。

当初の活動は困難を極めました。県内に協力を求めても「がんばってね」といった反応しか得られず、自分の思いが伝わらないことに苦悩しました。組織づくりも難航し、全てを自分で抱え込み「どうしよう、どうしよう」と追い込まれました。そんな中で副実行委員長や実行委員を担ってくれるメンバーが現れ、「実行委員長、ここは任せてください」と言われたことで状況が一変。同友会のメンバーは皆経営者であり、任せればできる人たちだと気づきました。私は自分で全て背負うリーダーから、方針を明確にし、役割と権限を委譲し、最終的な責任は自分が取るという「見守るリーダー」へと変革することができたのだと思います。

組織が動き出すとスピードは上がり、参加目標を当初の1,500名か

テム導入を父に提案しましたが、父は昔ながらの職人であり、「アメリカからできる」「投資する金もない」と常に反対されました。私たちは本当によく衝突し、何を提案しても頭ごなしに否定される日々が続きました。父がめざしたのは家族で支えあう小規模経営でしたが、私は大規模養豚の夢を持っていました。人手不足解消のための社員雇用も反対され、父のリーダーシップは独裁に近いワンマン経営でした。

同友会での衝撃と自己変革

そんな中、私は地元の建設会社の社長の誘いで2013年に同友会に入会します。農業技術ではなく「経営」を学びたいと強く感じていた時期でした。入会後の新会員オリエンテーショ

ら2,000名に変更。実行委員長として全国を駆け回り、ピンクの豚の帽子をかぶって徹底的にPRを行いました。結果、宮崎青全交は2,000名という目標を達成し、大成功を収めました。青全交2日目の後行われた連絡会で、鳴りやまない拍手を聞いたとき、「本当にやり切った」と心の底から思えました。

火災を乗り越え、未来へ向かう

青全交実行委員長として、県外に行くことが多くなり、会社を空けることが増えたことで、社員を信じて任せる経営へと大きく舵を切りました。インタナシップの対応や、仕事を知らずともらう企画の運営などを全て社員に任せることで、社員は自主的に動くようになっています。そんなとき、父から「お前は任せたつもりかもしれないが、丸投げになってないか?」と指摘されます。規模拡大で社員数が増える中、これまでの思いや考えを社員に伝えることができなくなっており、現場が荒れていたのです。

そして2024年1月29日、火災が発生し、分娩の場所であった豚舎がほぼ全焼。我が社にとって最大の危機です。その豚舎を担当していた社員も落ち込んでいたのですが、「このことはかなり苦しいです。ただ、今日現場を見て、死んだ豚も見て、自分なりに

ンで、「経営者の責任」「対等な労使関係」、そして「社員は最も信頼できるパートナー」という言葉に衝撃を受けました。当時の私はトップダウンであり、社員を大切にしている感覚がほとんどありませんでした。

それから同友会で学び続けていた私でしたが、ある時、先輩経営者から「お前がやっていること、父ちゃんと一緒にやねえか」と指摘されます。自分は変わったつもりでしたが、実際は父と同じような態度や言葉を社員に向けていたのです。打ちのめされながらも、先輩の助言で2016年に「経営指針をつくる会」を受講しました。

社員と9か月間かけて話しあい、「生命(いのち)と向きあい、生命(いのち)をつなぐ、豚肉を安全に供給して人々の健康と長寿に寄与する」という経営理念が完成しました。しかし、父に否定されることを恐れた私は、完成した理念をそのままの引き出しにしまっていました。

危機からの脱却と20億円の挑戦

その後、2019年に代表に就任しますが、就任直後の資金繰りは「火の車」でした。出荷成績の低下や病気の発生等様々な問題が重なって売上は2億2,000万円から1億8,700万円まで落ち込みました。この状況を打開するため、私は技能実習生の受け

受け入れることができました。これからの会社のために、もっと頑張りたいと思いました」と連絡をくれました。同友会や取り引き先の仲間たちもすぐに駆けつけてくれ、通常2週間かかると思われた片付け作業は、20名以上の協力により1日半で完了しました。社員や周りの仲間達に支えられていることを実感しました。

火災という大きな危機はありながらも、売上3倍という目標を達成することができたのは、青全交実行委員長を担うことで培うことができたリーダーの姿にあると考えています。

私は、「引つ張るリーダー」から、社員や仲間を信頼し見守っていく「支えるリーダー」へ変わりつつある。私の目標は、今後10年で養豚経営者を5名育成し、地域で深刻化している耕作放棄地解消などの新規事業にも取り組み、日本の農業を守り発展させることです。そして、売上35億円をめざし、これからも挑戦を楽しんでいます。

(文責 事務局 田中啓介)



訪問記

Vol. 68
ほうもんき

横山さんは、日向市財光寺で小規模多機能居型居宅介護あったかほーむ愛あいとトムソーヤの2ヶ所、看護小規模多機能型居宅介護（以下、「看多機」）音OTTO、有料老人ホームマイハートKOKO、凜、ジャックとまめの木の3ヶ所、訪問看護ステーションを1ヶ所、企業主導型保育事業はらべこあおむし保育園の8ヶ所の事業所を運営しています。

開設して17年。赤ちゃんから100歳越えの高齢者の方々の支援をしています。

殆どの事業所が補助金に頼らない独自運営に誇りをもっています。



特定非営利活動法人 あったかほーむ愛あい

代表 横山 美智子さん

〔県北支部〕

初めて来たのに
「ほっ…」とする場所でありたい

した。玄関から観葉植物がズラリ。手入れも行き届いて横山さんの人柄を感じます。

還暦直前の創業

事業を始めて17年になるとのこと。日向の市郡医師会で働いていた時に感じた介護の在り方に想いをのせ開業を決断した横山さん。介護福祉士、介護支援専門員の資格は九州保健福祉大学（現・九州医療科学大学）の通信制で働きながら学び取得しました。事業を始めた時はいろいろと苦労もあった事と思いますが「その間苦しかったとは思いません」とサラッと話す横山さん。朝早くから夜遅くまで働き、学んだそうです。「たくさんの人に助けていただきました、融資がうまくいかず友人が手を差し延べてくれ何とかスタートできました」と。横山さんのお話は、何事もポジティブ思考で圧倒されます。

同友会について

横山さんは同友会に2024年の3月に入会し、昨年6月には一緒に働いている娘さんと息子さんの奥さんが入会しました。

「例会で学んだことを私だけじゃ伝えきれませんが、それを娘や嫁、そして職員にも参加を促して伝えていきたいなと考えました。私の考えと同友会の教えは似たところがあります。異業種の方々の報告を聞いてよかったです

地域で必要とされる事業をめざして

思ったり、うぐんとなる報告もありますが人それぞれに考え方あり、違つて当たり前。ただ、グループ討論の発表時に「・・・でまとまりました」とか「・・・という結論になりました」と考え方の終着点を作るのはどうかと思います。いろいろな意見がありそれを交流できるのが同友会の良さだと思えます」と語る横山さん。

例会に参加した翌日は、必ず朝のミーティングで報告会の内容を話されるそうです。二人の娘さんが同友会の仲間と仲良くなつて学んでほしいと思つているそうです。

法人には委員会活動があり活発になされています。特に3年前に立ち上げた生産性プロジェクトチームでは、「私たちは何のためにこのプロジェクトを立ち上げたのか、誰のために始めたのか」と議論になり「美智子さんがいなくなった時に通常の業務ができなかったら、自分たちの処遇に問題が起きるよね、それよりなにより利用者様にいいサービスが提供できない事にならないために今、何が必要か何をしたらいいか」とか「僕たち私たちは誰のために何のために生産性に取り組んでいるのか」と喧々諤々と意見が交わされたそうです、そのスタッフの姿に感動したそうです。

グループがたくさんあるので温度差

笑顔の素がたくさん

取材当日は看多機OTTOで待ち合わせ。横山さんが玄関で迎えてくれました。スタッフさんの笑顔あふれる挨拶が気持ちいい。ちょうどはらべこあおむし保育園の園児たちとOTTOの高齢者の方々が誕生日会をやっていました。「見ていかれますか」の言葉に誘われて「それではちょっとだけ見学を」。園児さんにスタッフが一人ずつ「お年は何歳ですか?」とか「身長は?」と質問。園児たちが大きな声で答えていました。それを見ているスタッフも笑顔で、アットホームでいいなあと感じました。はらべこあおむし保育園は高齢者施設と併設されていることで、いつもおじいちゃん、おばあちゃんの優しい視線を受けながら皆で一緒にご飯を食べたり、おやつ作りをしたりと、園児も優しい子供たちに育っているようです。



見学をした看多機OTTOの施設内は介護ロボットをはじめ、たくさんの介護機器を利用した支援がされていてびっくり。ちょうど車いすのまま入れるお風呂で入浴を見学しました。

「ここではなく自宅で話しましょう」と横山さん。最初に開所した「あったかほーむ愛あい」の横がご自宅で

もあるそうです、元気なグループ、少し元気のないグループなどあり、その時は個人アドバイスをするそうです。「負の連鎖があったりするので早く解決するのが大事」と横山さん。横山さんは何かある毎に職員さんの「おかげ」つて褒めます。職員さんの伸び伸びと働ける職場であつて現在73名の職員数、少し多いくらいだけど余裕のあるいろいろな仕掛けができるという。外部からの見学者も多く、4月からは地域包括支援センターも始動するそうなので楽しみです。



特定非営利活動法人 あったかほーむ愛あい

住所/ 日向市大字財光寺2939-8
TEL/ 0982-66-0501 FAX/ 0982-66-0502
事業内容/ 介護・児童福祉

編集後記

横山さんとは例会で話すくらいでこれまでまじと話すことはありませんでした。みんなが忙しい人じゃからというんで1時間だけ時間をもらつてお話を伺いましたが、話しやすくなんでも気楽に話してくださつて、時間が全く足りなく今度は娘さんたちにも話を聞こうかなと。裏表がない、気さくな人でした。

取材 (株) クロギデザイン 黒木詔一

赤ちゃん誕生!!
おめでとうございます

11/12

㈱日向屋
専務取締役
請問 仁さん (県北支部)
鍼灸治療院YELL
院長
請問 ひかりさん (きりしま支部)に

第1子 (長女) ひなたちゃん

が誕生しました。

広報誌にチラシを同封しませんか?

宮崎同友会会員限定で広報誌にチラシを同封することができます。チラシは、お送りしたい月の前月末までに事務局にお送りください。自社での取り組み、やっていることを他の仲間にも知ってもらいましょう。チラシの封入は**1部 10円**です。会員460名に封入する場合は、460名×10円で4,600円になります。ご自身の所在支部のみ、特定の支部だけに封入することも可能です。同封をお考えの方は一度事務局までご連絡ください。



ミツワ産業(株)

専務取締役 本 啓太さん (44歳)

きりしま支部



「窓や建材のことなら全てお任せ下さい。当社は創業してもうすぐ50周年を迎える伝統と信頼のある卸売店です。多くの地域の方々や工務店様に支えられ、これまで営業してきました。今後も皆様のお役に立つよう精進致します。

〒都城市南横町8347-1
TEL / 0986-25-0046
事業内容 / 住宅設備機器卸売業

(有)三船産業

専務取締役 三船 新平さん (28歳)

宮崎南支部



宮崎市内に拠点を置き、宮崎市からの委託業務や企業様から排出される廃棄物の収集運搬、さらには処理をしております。

〒宮崎市高岡町上倉永1106-42
TEL / 0985-82-5353 FAX / 0985-82-3732
事業内容 / 廃棄物収集、運搬及び処理等

(有)一政設備

代表取締役 一政 貴博さん (34歳)

宮崎南支部



管工事業全般をはじめ、水廻り工事やリフォーム、リユース商品販売などを行っております。地域のひとと共に成長していく会社です。

〒宮崎市大字赤江530-4
TEL / 0985-53-4884 FAX / 0985-53-4895
事業内容 / 衛生・空調設備、水廻りリフォーム、機器設備

NEW FACE



今回のご紹介は11月30日～12月23日入会された3名の新会員さんです。(支部別・50音順)

県北支部	56名
ひむか支部	29名
宮崎北支部	124名
宮崎南支部	79名
きりしま支部	157名
合計	445名

※2025年12月23日現在

〔宮崎北支部〕
望年会

12月10日、宮崎北支部望年会を開催。28名が参加し、桑山さん、橋口さんの司会で、お互いの今年1年を振り返る楽しい交流のひとつでした。最後は、第35回みやざき中小企業経営フォーラム実行委員長の立山氏による一本締めの音頭で閉会となりました。

〔宮崎南支部〕
同友会を知り合う会&望年会

12月4日に宮崎南支部「同友会を知る会&望年会」を開催。創立当初から関わられ、今期幹事として支えてくれているIDO・井戸事務所の井戸泰雄氏が「同友会の活動に学ぶ(感謝の気持ちをこめて)」というテーマで話され、熱い話に皆引き寄せられました。30年史を早く読みたくなった方も多かったのではないのでしょうか。

〔きりしま支部〕
12月例会&大望年会

12月22日、きりしま支部例会&大望年会を開催。110名が参加し、会場は熱気に包まれました。(有)ファミリーガスの森さんの報告は、同業の仲間と切磋琢磨しあう実践内容で圧巻でした。望年会では2025年に輝いたMVPを選び、(同)花菜の村山さんが受賞。そのプレゼンターはトナカイに運ばれてきたタナカクロース。(この全ては秘密)笑顔あふれる一夜となりました。

＼新着まだまだ、たくさん活動しています！／

活動内容は
同友会Facebookでも配信中!!



12月理事会報告

日時：12月23日(火) 17:00～20:00 於：宮崎市民プラザ&Zoom
理事29名中23名出席(出席率79.3%)＋事務局2名

01. 前回理事会(11月28日)以降の活動の経過報告を確認するとともに、
12月22日までの3名の入会申し込みと1名の退会申出を承認しました。会員数は445名。

全体として退会率が上昇。なかでも宮崎北支部では退会者が期首会員数に対して20%をこえる見通しであることから、支部幹事会でその要因を分析して手立てを考えること、また組織強化推進協議会でも論議をしてほしいと、代表理事より要請がありました。

また、宮崎北支部からは功労会員の規定の見直しについて提案がありました。功労会員設置の経緯も踏まえながら、検討を重ねることとしました。

02. みやざき中小企業経営フォーラムについて

(1) 第34回フォーラムの振り返りとして実行委員会での総括会議の内容の報告が小原実行委員長よりありました。提出内容が、振り返りの項目ごとの記載だったため、「成果と課題」に整理して次回理事会に再度提出することになりました。

(2) 来年の第35回経営フォーラムの実行委員会の立ち上げにあたって、各支部から副実行委員長の推薦を行うことを前回理事会で確認していましたが、各支部まだ対応できておらず、早急に対応することを申し合わせました。1月21日(水)18時から同友会ネットワークセンターで、実行委員長と副実行委員長とでフォーラムの骨格(開催月、分科会数等)と組織体制案、第1回実行委員会の日程を検討し、1月理事会に提案することを確認しました。

03. 新春経営者交流会の準備について

100名以上での参加にむけて各支部の参加目標を出し合いました(下表参照)。キャンセル締め切りは1月14日。目標達成にむけてそれぞれ参加の呼びかけをしていくことを確認しました。

	県北	ひむか	宮崎北	宮崎南	きりしま	合計	青年部
目標数 (ゲスト含む)	11	12	34	20	30	107	20

15グループを予定。グループ長は理事が担当し、当日14時30分よりグループ長会議を行うことを申し合わせました。

04. 新年度役員の選考について

(1) 第1回理事及び会計監査(監事)選考委員会が12月10日に開催されたこと、選考委員長に、ひむか支部の田中陽一氏(懐ひょっとこ堂 代表取締役)を選出し、選考規定にもとづいて、12月16日から12月26日の間で2026年度 理事及び会計監査(監事)並びに支部幹事、青年部会幹事の立候補・推薦の受付」を行っていること(12月16日にe.doyu掲示板で公告)が報告されました。

さらに、次回は1月7日(水)13時15分～15時にZoomで選考委員会を行うこと、そのために1月6日昼までに各組織からの理事推薦をだしあうことで、それぞれの組織で選考委員とともに準備を行ってほしいと要請がありました。

(2) 人が育つ会社づくり推進協議会より、春の役員研修会について、下記のとおり報告がありました。

- ・開催日時：2026年3月23日(月)16時30分～
- ・開催方法：県内二か所開催とすることを前提に、会場を探しています。
- ・開催内容：前回の役員研修の資料をもとに、30年史を生かして開催する。新役員も含めて三位一体の経営を深め、企業づくり・同友会づくり・地域づくり三位一体の運動へつなげていく。

05. 「第35回定時総会」の準備について

(1) 当日(5月13日)のスケジュール案が組織強化推進協議会より提案されました。一般社団法人としての設立総会も同日に行うこともあり、13時30分開会の20時間閉会と長時間にわたり参加が少なくなるのではという懸念から、1時間程度短くしたいと迎組織強化推進協議会座長より説明があり意見交換。意見を参考に再度推進協議会で検討し、1月理事会に提案することになりました。

(2) 議案準備のスケジュールについて事務局から提案があり、3月上旬に会員さんへ議案原案と一般社団法人の定款案の配信を行って意見を募集し、3月末から4月理事会で総会への提案議案をまとめることを確認しました。平行して各支部・青年部会および委員会・推進協議会でも振り返りと方針案の作成を行い、1次案について2月理事会で意見交換を行うことを確認しました。

(3) 支部総会・青年部総会の日程は、1月理事会に持ち寄ること、26年度活動計画の作成にあたっては、第1～第2週に支部幹事会、青年部会幹事会、委員会、推進協議会、第3～第4週に例会等の開催を目安に計画し、全体の調整を行うことを確認しました。

06. 26年度活動方針案について、代表理事から骨格の提案があり、グループ討論を行いました。討論の発表では、例会づくりの見直し、同友会の基本の学び合いが必要、退会率を下げる、小規模事業者向けの活動メニューの必要性等がだされ、これらをもとに次回理事会で代表理事より再提案することとなりました。

07. その他 ①10-12月期景況調査への回答促進の協力要請、②26年3月5-6日岩手県で開催の「第56回中小企業問題全国研究集会」の案内がありました。③事務局の六反田航太さんが12月末で退職すること、ハロワークで求人を行うことの報告がありました。

中小企業振興基本条例制定への取り組み ～三股町①～

中学生が「中小企業振興基本条例」を考えた！

三股町では、2025年1月「三股町中小企業振興基本条例(仮)」検討委員会を発足。

宮崎同友会会員でもある廣瀬吉弘三股商工会会長((有)ひろせ本店社長)を委員長に、副委員長はきりしま支部代表幹事の原秀直氏((株)ハラケアシシステム社長)、構成メンバーとして山元幸代氏((株)ARCUS社長)と樋口事務局次長も加わっています。今回は、中学生が条例づくりに関わった「ワークショップ」についてお伝えいたします。

三股中学校は、三股町に唯一の中学校で全校生徒約980名の県内一のマンモス校です。条例づくりに関わったのは、三股中学校まちづくり部の生徒たちです。まちづくり部は、原さんが顧問を務め、三股町の「協働のまちづくり」の一環として活動し、中学生が主体的にまちづくりに関わり、地域課題の発見・解決を目指す部活動です。具体的には、イベントの準備・参加、三股町の特産品開発、三股町の広報活動、そして活動報告会での発表と意見交換などを通じて、町民と共に三股町の未来を考えることを目指しています。活動は年々活性化し、今年は80名を超える部員が集まっています。そのなかで、条例検討に関わりたい約25名の生徒で条例チームを結成し、3回のワークショップを行いました。ワークショップでは、三股町企画商工課の田原智幸商工観光係長から課題提起、その後4～5名のグループに分かれてグループディスカッション、例会同様グループ発表を行います。

第1回目は10月1日に開催し、テーマは「幸せな働き方」

グループからはこんな意見が出されました。

- ・人の役に立ち、なおかつ自分のやりたいことができる
- ・みんなが楽しく働けて、職場も社会も支えることができる
- ・好きなことができて、成長ができて社会の役に立って、お金が稼げる。
- ・やりがいをもって働ける。
- 感謝されるなど充実した毎日を送れる。



第2回目のテーマは「幸せな会社」(10月15日開催)

【働きやすい労働環境】一残業がない、短時間で高収入、休みがとりやすい、週休二日制、自由に休みが取れるなど労働時間や休日の面での配慮がなされている。

【良好な人間関係】一社員同士の仲が良く、お互いを尊重し、人と人とのふれあいが深い。職場内の人間関係が円滑で感謝しあえる環境。

【安定かつ公正な収入】一収入が安定しており、頑張った分だけ

給料がもらえる。給料がたくさんもらえる仕組みがある。

【自己成長・やりがい】

一自分の長所が伸ばせる。仕事にやりがいを感じられる。

第3回目(10月22日開催)は、
いよいよ条例そのものに切り込んで
「振興条例の添削」のグループディスカッション

顧問の原さんからは「中学生で条例づくりに関われるって全国でも聞いたことがないぐらいすごいことなんだよ。みんなすごいことに関わっているんだよ」と激励の言葉も。部員は1年生から3年生までいます。その一人一人が条例案を読み込んできてのワークショップです。「難しくてよくわからなかった」「意味を教えてくださいながら家族と読んできました。この条例にどのような言葉を加えたら、今まで考えてきた「幸せな働き方」「幸せな会社」につながり、「暮らし、働き続けたい町」になっていくかの視点で考えあい、次のような意見が出されました。

- ・ハラスメントに関することが入っていない。会社の責務として中小企業の努力および役割に加えた方がよい。
- ・前文に「町民が」とあるが、町外から通ってくる働く人や学生もいるのでその人たちとも幸せになることを入れたい。「町民問わず」としてはどうか。
- ・第11条(町民の理解と協力)では、「町民ぐるみで」という言葉を入れたい。「自分たちで経済が循環するように協力する」を加えたい。

中学生がそれぞれの受けとめの中で、「町民がこの条例のもとに町内の経済をつくっていく主体者」という意識の芽生えを感じる3回のワークショップとなりました。検討委員会では、この意見をもとに3月議会提案へ向けて最終の詰めを行っていきます。

